

久保田たかし活動最前線

発行：久保田たかし後援会・太田市民懇話会

へビ年 脱皮して一回り大きく成長しよう

日頃より久保田たかしを支援して下さる皆様には、新たな年を清々しくお迎えしたこととお喜び申し上げます。

昨年は能登半島地震で始まった1年でした。9月には能登半島を豪雨が襲い地震で弱った地域に追い打ちをかけるように大きな被害をもたらしました。異常気象による自然災害が増加しています。太田市も対岸の火事とすることなく、防災体制の更なる強化に取り組む必要性を感じています。

今年は「第3次太田市総合計画」がスタートします。将来の都市像を「みんなの笑顔がすぐそばにあるまち おおた」とし、今後8年間のまちづくりの指針ができました。

今年もみんなが笑顔で安心して生活できる環境づくりに取り組んでいきますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

12月定例会

11月27日から12月13日の間で開催された12月定例会では、49議案が審議され、全員または賛成多数ですべての議案が可決されました。

議案の多くが期間満了となる放課後児童クラブの指定管理者の指定でした。来年度から始まる第3次太田市総合計画基本構想についても可決されました。

また、群馬県内の医療団体から要請を受け「ケア労働者の賃上げと大幅増員、医療・介護施設への支援拡充を求めることについて」と「前橋地方裁判所太田支部での労働審判実施を求めることについて」の請願が採択され、それぞれ太田市議会として国に対し意見書を提出することとなりました。



太田市のイベントに毎回出店してくれる木更津市
いつも販売のお手伝いをさせてもらってます

太田市合併20周年事業

2005年3月28日に平成の大合併で1市3町（太田市、尾島町、新田町、藪塚本町）が合併して新・太田市が誕生しました。あれから20年。時代は平成から令和へと移り、太田市は市民とともに成長を続けています。20周年を迎える本年度は、記念事業として78のイベントや事業を開催しています。

なかでも3000人の第九コンサートは昨年6月から練習を始めています。オープンハウスアリーナおおたで行われるコンサートが楽しみです。

また、交流都市である今治市に遠征して綱引き大会が行われ、太田市から2チームが参加して熱戦（結果は太田市の圧勝でしたが）が繰り広げられました。太田市議会も応援団として今治市を訪問し、今治市議会の皆さんと親交を深めることができました。

伝統の太田まつりでは江戸時代後期から伝わる「大名行列」が10年ぶりに復活し、武士や奉公人に扮した約70人が「ヨイヤサー」といった掛け声とともに本町通りを練り歩きました。

行列は、やりの先が毛になった「毛やり」を持った奉公人が先導し、古式にのっとり毛やりを投げ渡すと、観衆から大きな拍手が送られていました。

他にも様々な音楽イベントやスポーツイベント、太田の歴史探訪やお祭りなど内容は盛りだくさんです。それぞれのイベントに参加して合併から20年を感じてみてはいかがでしょうか。





太田市20周年記念事業

ありがとう20年。
太田まだまだ、のびざかり



おたん

合併20周年を記念して太田市新キャラクター「NEOTA」誕生！

江戸時代の新田岩松氏のお殿様はとても絵が上手でした。特に「新田猫」はネズミを追いかう効果があると養蚕農家を中心に人気になったそうです。太田市20周年を記念してこの「新田猫」をモチーフに新しいキャラクターが誕生しました。市の公式マスコットキャラクター「おたん」と仲良く太田市を盛り上げてくれることでしょう。

※名前の由来：「Neo」はギリシア語で「新しい」を意味します。新田猫をモチーフにしたことと、これからの太田市の発展を願って「NEO」と「OTA」を合せて「NEOTA」と名付けられましたとさ。

GALLERY



辰(龍)から巳(蛇)へと年が移りました。辰年は夢や理想が大きく広がる年。巳年はその夢を具体的に形にする年ともいわれているようです。勢いがあり、変化の激しい年から慎重に計画を練り知恵を働かせる年になったといえます。

昨年秋の衆院選では自公の過半数割れと国民民主党の議席が4倍増となるなど大きな政治的変化がありました。政策重視で活発な議論が展開され、真の民主主義政治が進んでいくことに期待したいと思います。

熟議の巳年。太田市議会中堅議員として地に足のついた活動をしていきます。

今年も皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

ご意見・ご感想をお寄せください。
相談ごともご遠慮なく下記までどうぞ。

久保田たかし後援会事務所

住 所：大泉町坂田1-1-1

TEL：0276-61-9926

FAX：0276-61-8993

「T03万円の壁」

昨年10月の衆議院議員選挙から「103万円の壁」という言葉が注目されています。パートやアルバイトで103万円を超えると所得税が発生して手取りが減ってしまう人が「働きたいけど損をするから働けない」という状況になるため、多くの人にとっても身近な問題です。特に学生や主婦が収入を103万円以下に抑えるために労働時間を調整するケースが多くみられ、これは企業側にとっても働き手不足の深刻化につながっています。

1995年に103万円に引き上げられて以来30年間にわたり見直されていません。共働き世帯が増え、物価も上昇してきたことで当時と比べて働き方も家計負担も大きく変わっています。また、最低賃金の上昇により、同じ時間働いても103万円を超えてしまいます。

国民民主党は最低賃金の上昇に合わせ、103万円を178万円まで引き上げる提案をしています。実態に合った制度改正が必要です。

